

# 十勝教育研究

## 巻頭言

十勝教育研究所  
所長  
山田 洋

## 教育現場への期待

ぶた井のどん田 たれ工房  
代表  
武田 善考



## わたしの授業実践

幕別町立白人小学校  
教諭  
大久保美聡

## わたしの学級経営

音更町立下音更中学校  
教諭  
田坂 吉信



## 日々徒然

新得町立新得中学校  
教諭  
柴山 貴大

## 日々徒然

本別町立本別中学校  
教諭  
池田 匠



## 紹介

採用校長 「我が信念を語る」  
昇任教頭 「我が決意を語る」  
新採用教職員 「我が抱負を語る」

# 巻頭言

十勝教育研究所  
所長

山田 洋



## 「子どもも主体」から 「子どもが主語」へ

昨年度、一昨年度とコロナ禍の中、教育研究でよく目にしたのは「主体的・対話的で深い学び」に関わる主題でした。奈須正裕教授（上智大学）の「雀の学校からの脱却」「教師の都合とタイミングで教える授業から、子どもも都合とタイミングで学ぶ授業への転換が必要」との言葉がとても印象的でした。子どもが主体的に学ぶことが強く求められ、それに応じた授業づくりの研究が進められました。

また、GIGAスクール構想が加速し、学校にネットワークと一人一台端末が整備され、教育のデジタル化が進み、次に注目されてきたのが「個別最適化学び」です。ICTを活用し、主

体的・対話的で深い学びを求めるだけでなく、個別最適な学びへ通じる道となるよう模索が始まりました。ここで特に留意されたのが、ICTの活用はあくまでも手段であるということでした。様々な研究成果が報告され、どれも貴重な手段とし広く活用される事案が見られるようになりました。今、ChatGPTが大きな話題となつていますが、ICTを手段として考えるならば「禁止」よりも有効な「活用」方法を考えるのが妥当でしょう。

また、デジタルを活用した学びは、時間・居場所・教材・指導者・支援者の組合せの自由度を大きく広げることとなり、それにより学びの多様化も大きく進むことが予想されます。このデジタル化について前教育産業室長の浅野大介氏は、講演の中で「様々な形態を学習者が選ぶことができるようになる。未来の教育では、学び場を定食屋からbuffetに業態替えることだと思ふ」と述べています。また、学習指導要領改訂に大きく関わった合田哲雄氏は、「子どもの認知の特性と学び方は、個々の子どもによって違う。デジタル化でそれに合わせた学びが可能になる」と述べています。これからの学校・教室・先生には個に応じた学びの多様化への対応がますます求められます。ICTを指導に活用できるか否かが、大きなポイントになると思われま

さらに昨年度、高等学校で「総合的な探究の時間」が始まりました。自分の生き方だけではなく、在り方までも考えながら課題を解決していく学びです。既に高校生が主体的に探究した成果などをテレビ等で紹介されることが多くなっています。十勝では、中学校の学びに新たな探究活動を導入する動きも見られます。

そして、昨年度末から今年度にかけて、教育研究で目立ってきたのが「子どもが主語の学び」という言葉です。もともと「動詞で考えれば子どもの得意が見えてくる」という教育格言があるくらいなので、「子どもは（が）○」する「学びを構築していくのは自然な流れなのでしょう。

十勝教育研究所は、今年度業務のテレワーク化を開始します。また、ホームページのリニューアルに着手し、提供する資料等のデジタル化を加速させます。所員のデジタルスキルを高めます。所員のニーズに定める体制を整えていきます。同時に、「SDGs・ESDの推進強化」を宣言し、環境に優しい業務の推進を心掛け、管内19市町村教育研究所と進める共同研究や協力校・協力員と進める協力員研究に力強く取組みます。また、新たに研修センター講座「十勝教育研究所と学ぶI・II」を担当し、研究成果を基にした授業づくりを皆さんと一緒に学びます。よろしくお願いいたします。

# 十勝 教育研究

No.344

June 2023

## 紹介

# 採用校長・昇任教頭 新採用教職員の紹介

## CONTENTS

### ◇巻頭言

「子ども主体」から  
「子どもが主語」へ

十勝教育研究所

所長 山田 洋

### ◆目次

### ◆教育現場への期待

ふた井のとん田 たれ工房

代表 武田 善考

### ◆紹介

採用校長の紹介「我が信念を語る」  
昇任教頭の紹介「我が決意を語る」  
新採用教職員の紹介「我が抱負を語る」

### ◆数字で見る十勝の教育

### ◆連載 わたしの授業実践

子どもたちが「面白い！」と  
感じる授業を目指して

幕別町立白人小学校

教諭 大久保美聡

20

### ◆連載 わたしの学級経営

クラスの自主性を促すために  
取り入れている工夫

音更町立下音更中学校

教諭 田坂 吉信

22

### ◆教育情報

十勝教育研究所の組織・業務内容  
刊行物紹介

Facebook & HP

共同研究・協力員研究概要

教育講演会案内・研修会案内

30

### ◆編集後記

### ◇日々徒然

「二握り」からの景色

新得町立新得中学校

教諭 柴山 貴大

理想へ少しでも近づけるように

本別町立本別中学校

教諭 池田 匠

### ◇学校めぐり

清水町立御影小学校

校長 谷口 大樹



## ぶた井のとん田 たれ工房 代表 武田 善考さん

地元の方のみならず、多くの観光客が行列をつくる帯広市の人気豚丼店「ぶた井のとん田」。その人気を支えているのが、創業当時から受け継がれている秘伝のたれである。このたれは、市内にある「たれ工房」で製造されており、先代から味を引き継いだのが、武田善考さんだ。武田さんは、元小学校教員という経歴をもち、本職のたれ作りのほかに、教員時代の経験を生かしてPTA活動にも精力的に取り組まれている。

今回は、「ぶた井のとん田 たれ工房」代表の武田さんに、仕事をする上で大切にされていることや、教育現場に期待することについて話を伺った。

まず、仕事をする上で大切にされていることについて伺った。「『手間暇をかけ、心を込めた味をお客さんに届けたい』という思いを一番大切にしています。創業当時から味の届けたいので、調理法や原材料は変

えず、手作りにこだわっています。先生の仕事は、自分の頑張り子どもたちの成長を通して実感することが多いと思います。そのため、成果がすぐに現れるとは限りません。しかし、この仕事はお客様の声から成果が伝わってきます。「おいしかった」「また注文したい」という連絡を頂いたり、卸先から売上げが伸びていることを聞いたりすると、自分の仕事誰かの喜びにつながっていると実感します」

「その反面、とん田のたれを楽しむにしているお客様の思いを裏切ってしまうたらどうしようという恐怖心もあります。少しでも手を抜くと味が落ちてしまい、お客様が離れていきます。また、食中毒など万が一のことがあってはいけません。自分の仕事誰かに影響を与えているという点では、先生の仕事と共通していると感じます」と武田さんは語る。

次に、これからの学校や保護者に対

する思いを伺った。

「コロナ禍で入学した子どもたちは、体験学習、運動会や学習発表会といった学校行事、みんなと顔を合わせて食べる給食など、今まで当たり前のよう

にできていた機会が奪われています。仲間と一緒に何かを創り上げる経験は、子どもたちを成長させてくれます。地域の方との交流は、子どもたちの見聞を広げることにつながります。以前、

この工房にも小学校2年生が見学に来てくれました。子どもたちが目を輝かせながら真剣に学ぶ姿を見て、こちらもうれしい気持ちになったことを覚えています。学校には、子どもたちの心を豊かにする体験の場を取り戻してほしいと思います」

「また、参観日やPTA活動が制限される中、保護者と先生や、保護者同士のつながる機会が少なくなっています。大人同士のつながりは、子どものためになると考えています。例えば、子ども同士でトラブルがあった際、保護者と先生の連携が取れていると、協力して問題解決に向かうことができます。

そして、保護者同士がつながることで、子どもの様子を共有し、ちょっとした変化に気づきやすくなります。大人同士がつながる機会の一つに、PTA活動があります。ただし、日中は仕事をされている保護者も多いので、参加しやすい形に変えていってほしいです」

最後に、先生方に対して、

「『子どもたちのため』という思いをもち、温かな気持ちで子どもたちと接してください。先生方には、とても感謝しています。それと同時に、先生方の心と体を心配しています。コロナ禍で、学校現場はこれまで以上に大変だと思っています。それでも、『子どもたちのため』という思いで無理をされている方も多いのではないのでしょうか。先生方も心にゆとりをもてるように、仕事だけではなく趣味や家族との時間を大切にしてほしいです。先生方が心にゆとりをもつことは、子どもたちにもよい影響を与えるはずですよ」という言葉を贈ってくださいました。

# 子どもたちの心を豊かにする

# 体験の場を取り戻してほしい。



上：柏小学校2年生から街探検のお礼にもらった手紙  
下：小学校教員時代、子どもと活動をする武田さん

右：心を込めてたれの容器一本一本にシールを貼る様子

## ぶた井のとん田 たれ工房

問合せ先

- ◆ 電話 0155-21-0029
- ◆ FAX 0155-21-0404

えっ！  
そうなの？

十勝管内小・中学校及び義務教育学校調査

# 数字で見る十勝の教育



十勝教育研究所では昨年度より、十勝管内の教育課題や教育情報・各学校の状況等、様々なテーマに関する調査を行い、その結果を広報誌やHPで公表し情報提供を行っています。今回は、帯広市内を含む十勝管内の95校（小62校・中31校・義2校）よりご回答を頂きました。ご多用中にもかかわらず、ご協力ありがとうございました。

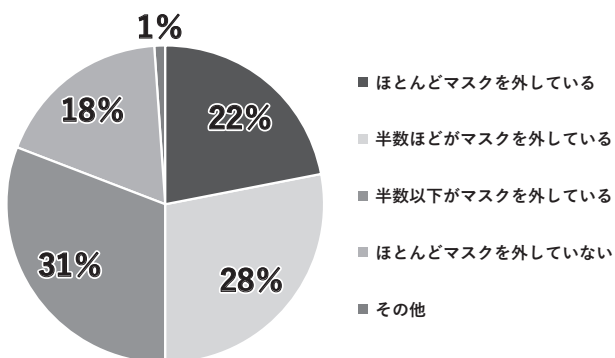
第1回アンケート結果

※ 調査期間：令和5年5月23日～6月12日

## 「現在の子どもたちの様子・今年度の学校行事等への対応」

### Q:子どもたちの学校生活での マスク着用状況は？

現在の子どもたちのマスク着用状況（全回答）

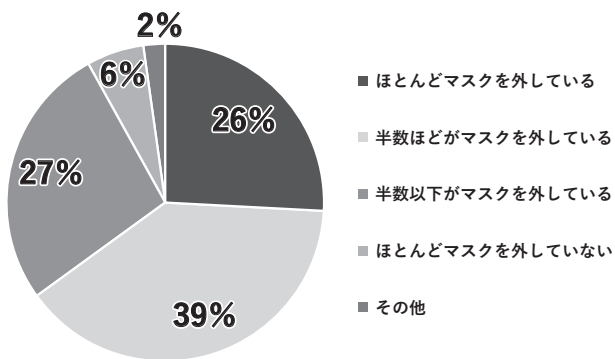


### 【調査結果からの分析】

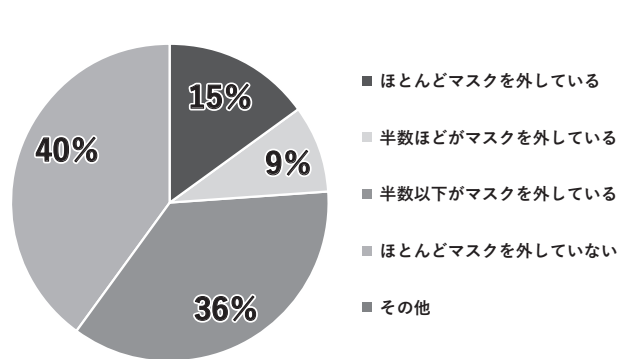
- 全回答によると、「ほとんどマスクを外している」学校は20%ほどにとどまり、マスクを外すことへの不安や抵抗感のある子どもたちが、依然として多いことがうかがえる（左のグラフ）。
- 小学校の回答によると、マスクを外している子が多い学校（ほとんど又は半数ほどが外す）が65%で、全回答よりはマスクを外している子の割合が多いことが分かった（左下のグラフ）。
- 中学校では、「ほとんどマスクを外していない」と回答した学校が40%もあり、また「半数以下がマスクを外している」との回答の割合も多く、中学生は小学生以上にマスクを外すことへの不安や抵抗感があると推察される。（下のグラフ）
- 紙面の都合上、ここでは記載できなかったが、学級数とマスク着用の相関関係については、「3学級以下」と「7学級以上12学級以下」の中学校でマスクを外していない傾向が高かった。

※ 小・中学校それぞれに義務教育学校を含めています。

現在の子どもたちのマスク着用状況（小学校）



現在の子どもたちのマスク着用状況（中学校）



上記以外にも、入学式や参観日、運動会（体育祭）等の実施についてご回答を頂きました。詳細につきましては、右のQRコードから又は十勝教育研究所のHPからご覧ください。なお、閲覧の際はパスワードが必要です。後日、教育委員会及び各学校にメールでお知らせします。





幕別町立白人小学校

教諭 大久保 美 聡

# わたしの 授業実践

～子どもたちが「面白い!」と  
感じる授業を目指して～

## ■はじめに

放課後、様々な仕事がある中で、クラスの子たちを想像しながら授業を考えることが私の楽しみの1つです。子どもたちが学校生活で過ごす大半は授業なので、「面白い!」と感じる時間にすることを心掛けています。

私が授業づくりで大切にしていることは、次の2つです。

- ① 学校でしかできない体験を
  - ② 子どもたちの熱量を感じ取る
- 今回は、子どもたちも私も一番笑顔が多い体育の授業の取組をまとめてみました。

## ■学校でしかできない体験を

### (1) 導入

私は、体育の授業の最初に体操を行っています。その代わりに、運動感覚や姿勢制御を身に付けるための感覚づくりや動きづくりの運動を、ウォーミングアップとして取り入れています。さらに、アイスブレイクを取り入れ、みんなが体育をする気持ちを整えていきます。このような活動を通して、クラスみんなで運動していく体と心を作っていきます。ときには、ウォーミングアップとアイスブレイクを織り交ぜて行うこともあります。

動きづくり・感覚づくりでよく使うもの	
マット系	鉄棒系
・うさぎとび・あざらし・手押し車 ・壁逆立ち・馬跳び・かえるの足打ち ・前転・後転	・だんごむし・ターザン・つばめ
リズム系	プール系
・片足や両足のふみきり・スキップ ・けんけんば	・もぐる・浮く ・浮いて進む・バブリング
アイスブレイク	
・仲間集めゲーム・なべなべそこぬけ・トラストアップ・ヒューマンチェア ・輪になってリラックス・丸太転がし・前後左右・リスと家・ねことねずみ ・電子レンジおに・シンクロゆりかご	

### (2) 学び合い・助け合い

「できないけれどできそう」は、学び合い・助け合いのチャンスタイムです。壁逆立ちを例にして考えると、肘がピンと伸びない子どもや足が最後まで上がりきれない子どもがいます。「できないけれどできそう」という子どもたちです。そんなとき、グループの間が肘を伸ばすことを伝えたり、足を持ち上げるのを手伝ったりすることで、



補助有り壁逆立ちを成功することができます。これは、倒立前転でも同じで、足を上げるサポートをしたり、上げた足を支えたりすると「できないけれどできそう」だった子どもたちは、補助有りでも「できた!」という感覚に変わります。この「できた!」の先には、仲間とハイタッチをして喜び合ったり、できたことをたたえ合ったりする姿が生まれます。ちょっとした助け合いの場面を仕掛けることで、子どもたちの表情はぐんと明るくなります。補助する子ども、どのようにサポートしたら友達ができるようになるのかや、けがをしないような補助の仕方を考えるようになります。みんなの励ましがある中で運動をすることで、助けられてできるようになること、できた喜びをみんなと共有することは、学校でしかできないことであり、「面白い!」につながっていると感じます。

学校だからこそできる、助け合いと喜びの共有。



## 子どもたちの熱量を感じ取る

子どもたちが45分間飽きずに熱量をもって活動できるかどうかは、どの教科でも大事にしています。体育の授業では主に次の2点を意識して授業を構成し、熱量を下げないための工夫をしています。

### (1) 運動量を確保する

運動の感覚を磨いたり、動きのこつをつかんだりするには、それなりの運動頻度が必要となります。しかし、ここで気を付けることは、トレーニングのような単調な動きの繰り返しにならないようにすることです。動きが単調だと子どもの熱量が下がり、成果が上がらなくなってしまうます。そこで、繰り返しやりたくなるように、「簡単」「競争」「できそう」をキーワードとして、活動を設定しています。さらに、それをサーキットにすることで、活動していない時間を減らし、熱量をもち続けられるようにしています。

### (2) 45分をいくつかのセットに分ける

体育の授業は、45分を2クールや3クールに分けて行うことが多いです。例えば、持久走と走り高跳びを一緒にしたり、鉄棒運動・走り幅跳び・ハードル走をセットにしたりします。前半と後半のグループに分けて、種目を交代します。1つの種目の活動時間は短くなりますが、単元を組み合わせて行うことで、回数を増やすことが可能です。それによって継続した取

時間	持久走	走り高跳び
前半	Aグループ	Bグループ
後半	Bグループ	Aグループ

組となり、数時間で終わってしまうところも、長期的に学習に取り組むことができます。

単元を組み合わせるときには、「活動場所」「1回でできる活動人数」「運動領域」「先生の人数」を考えて、組合せ方を工夫します。時間によって運動する種目が切り替わるので、1時間の授業だけではなく次の時間まで熱量をもって意欲的に取り組む姿が見られています。

## ■心のもち方

これまで、多くの先生方の授業や実践を参観させていただき、たくさん引き出しをもつことができました。笑顔で励ましたりたたえたりすること、一緒に喜んだり鼓舞したりすることが、子どもたちの熱量につながっているということや、私自身もそのことを心掛けるようになりました。また、心に余裕をもつことも、子どもたちの楽しさにつながっていると感じました。私が体育の授業をいつも笑顔で楽しく終えられることが、子どもたちの「面白い！」につながっていると信じています。

## ■おわりに

今は、ゲームやタブレット端末など

子どもたちが熱量をもって活動できる授業をつくる。

視覚的な刺激があつて、1人でも楽しめることがたくさんあります。そのような中で、みんなで体を動かしたり学校でしかできない体験をしたりするところが「面白い！」と思ってもらえるように、日々授業改善に努め、授業力を高めていきたいです。







音更町立下音更中学校

教諭 田坂吉信

# わたしの 学級経営

～クラスの自主性を促すために  
取り入れている工夫～

## ■はじめに

私の目指す学級は、「子どもが自らやってみよう」という意欲を形にできる「学級」です。この学級の基礎をつくる上で心掛けているのは、「子どもたち」にできてほしいことを教師が率先して「取り組む」ということです。

もう少し上のレベルを目指せたかなと思うこともありますが、子どもたちが教師の予想を超える成長を見せてくれることが、学級経営の楽しさだと思います。

## ■学級担任の役割

個性ある様々なスキルが必要と言われるような予測困難な時代になりました。そのような中で「子どもたちの自己決定」を尊重し、学級内で一人一人の存在価値を高めていくことが学級担任の役割の1つだと考えています。

### (1) 自らが示す

表題の写真は、入学時に私が描いた黒板アートです。イラストが得意なわけではないですが、学期始めは率先して描いています。また、子どもの誕生日会の企画もしています。ほかに、ギター片手に熱唱したり、子どもが企

画した出し物に自分も参加したりします。教師が自ら楽しむという姿勢を示すことが大切だと考えるからです。

### (2) 居場所や所属感をつくる

また、一人一人の趣味や特技を大事にしています。「楽しい！」や「イラストで貢献できる」といった子どもの個性や強みを大事にすることで「やってみよう！」というやる気につながります。

子どもから企画の相談を受けたら、基本的に全ての案にOKを出し、アドバイスや応援をします。子どもたちは自分の趣味や特技をみんなと共有することに喜びを感じるものです。一人一人が「自分が役に立っている」という自己有用感を感じることができるようにするのも教師の役割と考えています。

### (3) 予想以上に結果を出すもの

(2)で紹介したような取組が進み、繰り返し返すほど、子どもたちは著しく成長します。学級担任の予想を上回る取組を見せてくれたとき、感動もまた膨らみます。

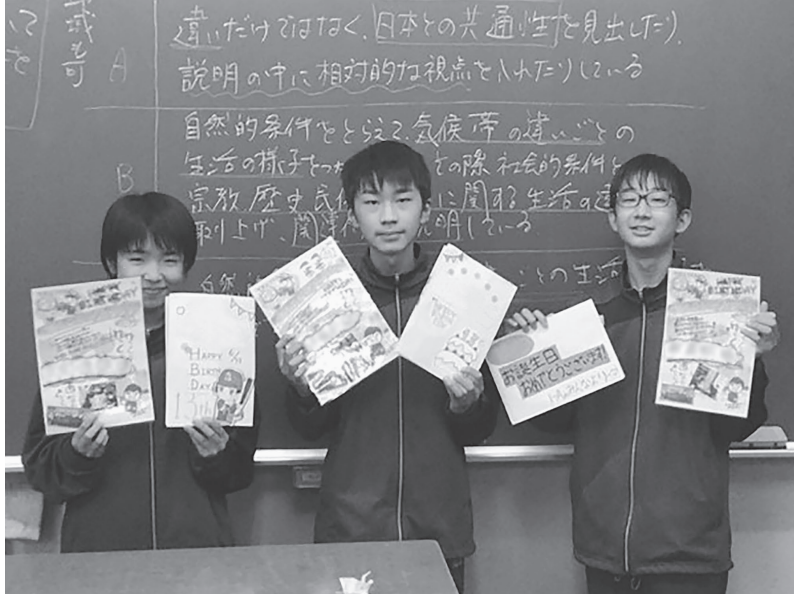
### (4) 若手の先生方へ

自分の得意なことを基盤に、好きなことをどんどん発信していくことが、教師としての魅力にもつながると思います。たとえばそれがプロのレベルでは



なくとも大丈夫。「私は、やりたいことをやる！伝えたいことを伝える」という自分の行動を通して、教師としての熱意や信念が伝わるように心掛けています。

子どもたちが成長を楽しむための環境づくり。



# 個の取組を生かし、チームで最高のパフォーマンスを発揮する係活動。

■ 願いが伝わる係活動

自ら主体的に動く子どもを育成するために、例えば、次のようなアプローチが効果的と考えています。

(1) 役割に優劣を付けない

執行部や運営部と呼ばれる「核」となる部は、人前で話す機会が多いため重要視されることがあります。ですが、黒板消し担当などの子どもたちがいるおかげで、毎日の授業を気持ちよく行うことができることに気付かせることが大切です。執行部だからということ

ではなく、居心地のよい環境づくりのために、どれも欠くことができない役割であると同時に、尊い仕事であると考えられるようにしています。

(2) 個とチームでやりきる役割

係活動では、「一人一人が自分の役割を自覚し、最後まで責任をもってやり遂げる」ことを目標にします。よく学級経営で扱われる「一人一役」と呼ばれるものです。

しかし、「自分の役割以外はやる気がありません」といった、悲しい活動にはしたくありません。

そこで、考え方として「一人一・五役」と呼ぶことで、大変そうながいるときは、「0・5の力で協力」とするわけです。これは、私が若いときに、先輩の先生から学ばせてもらいました。よいものは自分なりに解釈して吸収し、実践することも大切な考えです。

(3) チームでやりきる役割

1人ではできないような、チームで取り組む機会を意図的に設定します。例えば「月1回の誕生日会」の催しは、執行部の議長と書記が担当します。学級会以外にも「力を合わせて取り組む機会」があることで、協力して物事に取り組む姿勢が身に付きます。

また、教師からも手作りのカードな

どの盛大なプレゼントを付けます。

(4) やってみせ：

「やってみせ、言ってみせ、聞いてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ」

具体的に教えて理解させ、そしてできた褒めてあげる。褒める行為は、必ず自信が付き成長につながります。さらに、続きもあります。

「話し合い、耳を傾け、承認し、任せてやらねば、人は育たず」

「やっている、姿を感謝で見守って、信頼せねば、人は実らず」

この言葉を、私の学級経営の指針としています。

下は、各部から出された部報です。全て自分たちで企画運営しています。自主的活動が活発になると自治と規律も育ちます。

■ おわりに

学級担任になることが決まり、そして受けもつ子どもたちが決まると、どんな学級にしたいのかを考えます。そこから必要な係活動を決めていくわけですが、私は、学級がスタートする新学期前、この作業に多くの時間を掛けます。教師は、「楽しく学校に来て」「居心

地がよく」「個々が輝く」学級をつくる責任をもっています。

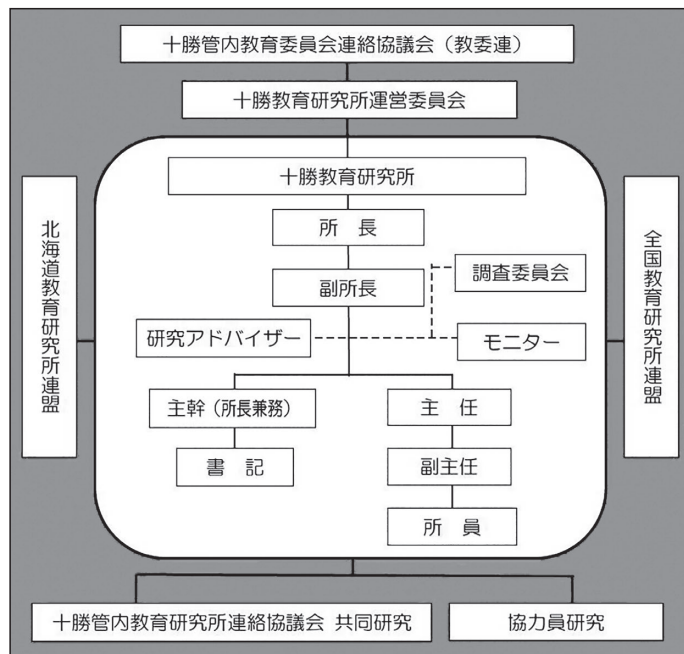
子どもたちが自主性をもって生き生きと活動する学級づくりを目指すには、まずは教師が情熱と愛情をもって好きに活動することが大切だと思えます。そして、自分の力を遺憾なく発揮できる場としての温かな学級づくりをこれからも目指していきたいと思えます。

## 組織

### ◆運営の基本方針・機構図

十勝教育研究所は、十勝管内教育委員会連絡協議会によって設置されている公的な研究機関です。

各市町村教育委員会、十勝教育局並びに教育関係機関、十勝教育研修センターとの密接な連携を図り、その中心的な業務である調査・研究、研修活動、資料提供等を通して、十勝管内の教育の充実、発展に尽くすことを基本方針としております。



### ◆令和5年度 十勝教育研究所 職員



清水 悦子 書記 柴田 悠二 副主任 【協力員研究】	山本 由佳 所員 横山 一仁 副所長 《共同研究》	白澤 大輔 所員 山田 洋 所長 《共同研究》	榎山 修斗 所員 松村 理史 主任 《共同研究》
----------------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--------------------------------

### ◆ご挨拶

お世話になりました

前主任所員 杉澤 諭 (幕別町立幕別小学校)  
 前副主任所員 野村 知未 (幕別町立幕別中学校)

よろしくお願いたします

所 員 山本 由佳 (幕別町立札内中学校)  
 所 員 榎山 修斗 (幕別町立札内北小学校)



### ◇研究機関としての研究

十勝管内教育研究所連絡協議会共同研究（26ページ参照）  
十勝教育研究所協力員研究（27ページ参照）

### ◇講演会・研修会の開催

令和5年度（2023年度）第78回北海道教育研究所連盟研究発表大会（十勝大会）兼第65全国教育研究所連盟北海道地区研究発表大会 兼令和5年度十勝管内教育研究所所員研修会（29ページ参照）  
とかち教育講演会（28ページ参照）  
十勝教育研究所研究発表大会（29ページ参照）

### ◇関係機関との連携

北海道教育研究所連盟第18次共同研究  
全国教育研究所連盟、北海道教育研究所連盟、道東地区・十勝管内教育研究所連絡協議会との連携

### ◇教育研究相談

校内共同研究の進め方や個人研究の相談など

### ◇資料の提供

#### 「研究資料・学習指導資料コーナー」

管内小・中学校の研究紀要、各研究所の小学校社会科副読本やキャリア・パスポートなどが閲覧できます。また、教育関係雑誌のバックナンバーも配架しています。

#### 「閲覧コーナー」

##### 【十勝教育研究所発刊物】

研究紀要 共同研究・協力員研究ダイジェスト版  
学習指導資料「十勝の子どもの学力」 広報誌「十勝教育研究」

##### 【教育関係雑誌】

『初等教育資料』 『中等教育資料』  
『指導と評価』 『道徳と特別活動』  
『授業力&学級経営力』

#### 「教科書コーナー」

図書室内には小・中・高等学校の各教科の教科書を全出版社分取りそろえておりますので、内容を比べることもできます。

#### 「研究会お知らせコーナー」

管内で開催される研究会の日程や教育研究サークル・北海道立教育研究所等の情報を掲示しています。



## ◇ 広報誌「十勝教育研究」

広報誌「十勝教育研究」は、教育の今日的諸課題に関する研究や、実践などの発表・交流の場です。発刊は年3回を予定しております。

より多くの皆様にご愛読いただけるよう、レイアウトを工夫しながら編集してきました。

手に取っていただいた方々が「読んでよかった」と感じられるよう、今年度も分かりやすく充実した内容となるように心掛け、丁寧な編集に努めてまいります。

### － 学校めぐり －

全ての号で掲載します。その学校の特色ある取組について、具体的な子どもの姿を交えながら、写真とともに掲載します。毎号裏表紙に掲載しますので、手に取った際に気軽に読むことができます。

### － 特 集 －

11月号と3月号に掲載します。話題となっているキーワード、現場で求められている指導方法などを分かりやすく解説します。また、特集に関わる十勝管内の実践も紹介します。

### － 紹介・挨拶 －

6月号では、採用校長・昇任教頭・新採用教職員の皆様からのご挨拶を紹介いたします。3月号では、定年退職を迎える皆様からのご挨拶と、今年度で閉校となる学校を紹介いたします。

### － 教育情報 －

十勝教育研究所で進める研究である「共同研究」「協力員研究」や、各種研究会・発表大会、「数字で見る十勝の教育」など、当研究所の取組や、十勝管内の教育情報を中心に紹介いたします。

### － わたしの学級経営 －

全ての号で掲載します。「学級づくりで大切にしていること」「楽しい学級づくりのための教室環境づくり」「学級通信の書き方」など、学級経営を支える具体的な実践を紹介いたします。

### － わたしの授業実践 －

全ての号で掲載します。「教科指導のポイント」「新しく加わった内容の指導法」「ICTの活用」など、授業を行う上で大切にしたいことなどについて、具体的な実践を紹介いたします。

### － 共に学び共に育つ －

年2回の掲載です。特別支援教育の視点に立った実践や、教材教具について掲載します。特別支援担当の先生だけではなく、広い視点で実践を紹介していただきます。

### － 健やかな心と体 －

年2回の掲載です。子どもたちが学びに向かう土台は「心」と「体」の健康です。養護教諭・栄養教諭の皆様が子どもたちへの関わり方や、学校全体での取組を紹介していただきます。

### － 日々徒然 －

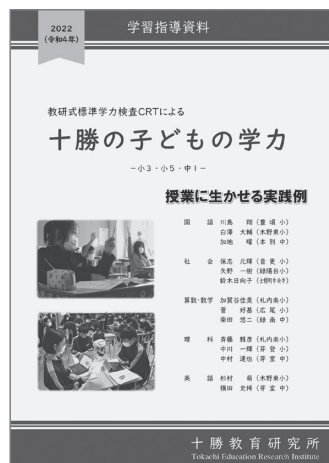
全ての号で、お二方紹介いたします。日々子どもたちとの関わりやプライベートなどで感じた思いなどについて、様々な立場から徒然なるまゝに執筆していただきます。

## ◇ 学習指導資料「十勝の子どもの学力」

教研式標準学力検査CRTによる十勝の子どもたちの学習状況や、各教科の指導の改善について掲載しています。

今年度は小学校4学年・6学年、中学校2学年を調査の対象としました。また、小学校3学年～中学校2学年までの学力の概観も掲載しておりますので、合わせてご覧ください。

学習指導の改善・充実のための基礎的な資料としてご活用ください。実践事例は、HPでも公開しています。



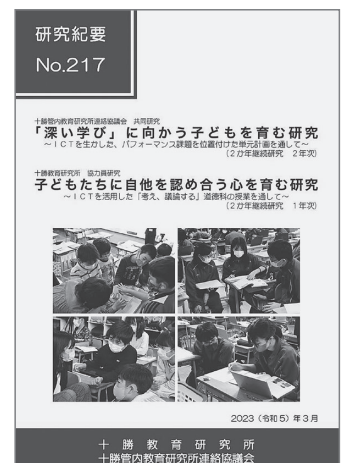
【十勝の子どもの学力】

## ◇ 研究紀要 No.218

十勝教育研究所では、毎年、研究紀要を発行し、「共同研究」及び「協力員研究」の内容や、その成果と課題を管内の先生方にお知らせしています。

なお、研究発表大会前に配布しておりました、ダイジェスト版は今年度より廃止いたします。

今年度より、研究発表大会にご参加いただく方につきましては、当研究所HP掲載の資料をご用意していただく予定です。ご了承ください。



【研究紀要】

# 十勝教育研究所

## Facebook & HP

十勝教育研究所では、Webでの情報発信も行っています。



Facebookのアプリやインターネットブラウザから、「十勝教育研究所」と入力し、検索してください。

フォローされると、投稿内容が表示されます。投稿への「いいね!」と「シェア」もお願いします。



## 十勝教育研究所ホームページ

<http://www.tokyoken.net/>



ホームページへは、インターネットブラウザから「十勝教育研究所」と入力して検索されるか、こちらのQRコードを読み込んでください。

毎日の授業や学級経営で活用できる資料、年3回発行の広報誌「十勝教育研究」の記事を掲載しています。



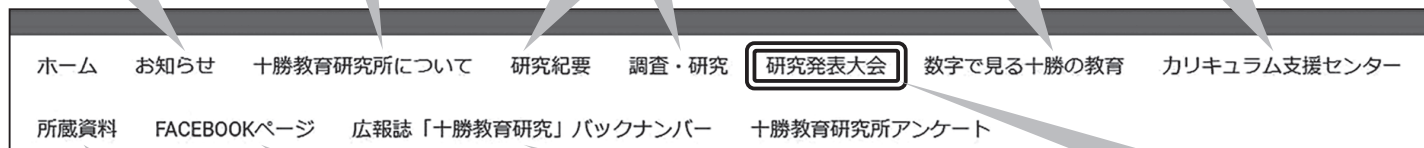
十勝教育研究所の運営方針、組織図、沿革等を掲載

各講演会や研究大会の案内・参加報告等、様々な情報を発信

十勝管内教育研究所連絡協議会共同研究及び十勝教育研究所協力員研究に関する資料を掲載

昨年度より開始した、十勝管内の教育に関する調査の結果を公表し、情報提供

研究資料・学習指導資料コーナーのお知らせ・情報端末コーナー・教科書センター・図書利用案内を掲載



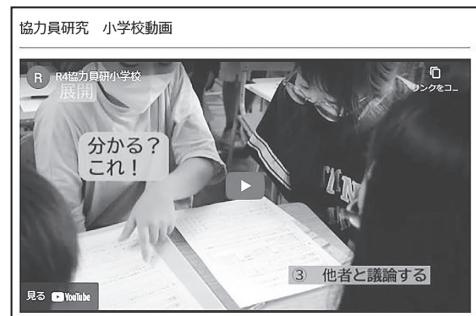
十勝教育研究所が所蔵する研究紀要等の一覧を掲載

ここからFacebookページにリンク

広報誌「十勝教育研究」のバックナンバーをPDFで紹介

### 研究発表大会で紹介された研究の概要や資料を見ることができます!

令和3年度より、十勝教育研究所研究発表大会で紹介した「共同研究」「協力員研究」に関わる資料をご覧になることができます。十勝教育研究所HPからアクセスする場合は、3月に各学校へ配信したメールに記載したパスワードを打ち込むことで、資料を閲覧・ダウンロードすることができます。ぜひ、研究や実践にご活用ください。



## 考えを広げ深める対話 学びを自覚する振り返り

### 〈研究主題〉

### 自分の考えを表現し合い、学びを深める子どもを育む研究

～考えを広げ深める対話の工夫と、学びを自覚する振り返りの充実を通して～

(2か年継続研究 1年次)

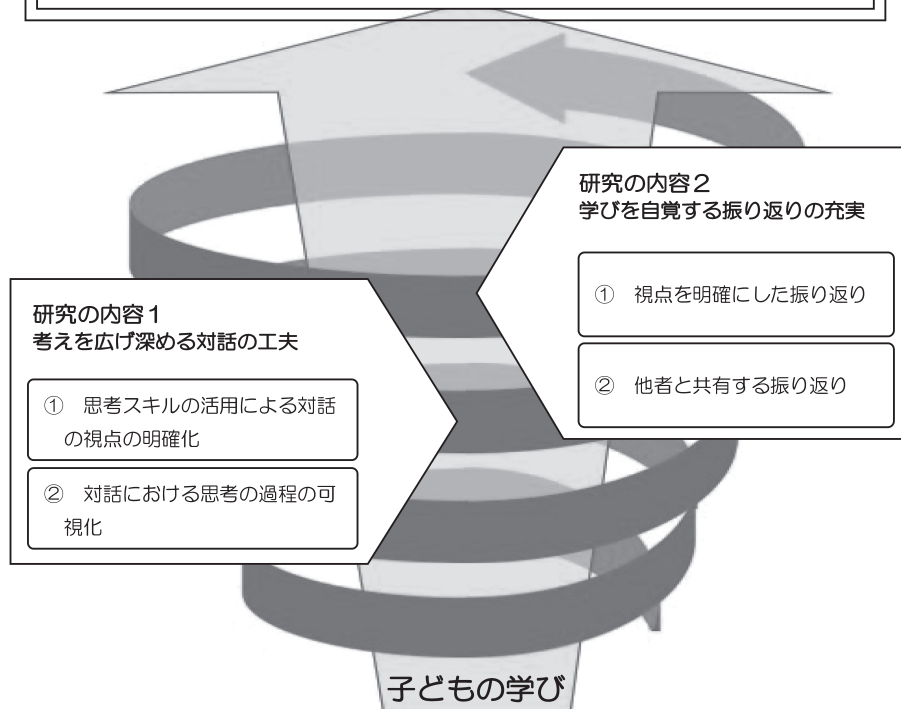
全国学力・学習状況調査の質問紙調査によると、北海道の子どもたちは対話や振り返りに関わる質問で全国比を下回る結果となっており、十勝管内の小・中学校においても同様の傾向が見られました。学習指導要領では、子ども自身が見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」の実現や、子ども自身が子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」の実現につなげることが必要とされています。

このようなことから、研究1年次では考えを広げ深める対話の工夫と、学びを自覚する振り返りの充実を通して、自分の考えを表現し合い、学びを深める子どもを育む研究を進めます。

#### 研究の仮説

考えを広げ深める対話の工夫と、学びを自覚する振り返りの充実を通して、自分の考えを表現し合い、学びを深める子どもを育むことができるだろう。

### 自分の考えを表現し合い、学びを深める子ども



管内19市町村の教育研究所と十勝教育研究所が一体となって、授業実践を通じた研究を進めます。

# 協力員 研究

## 🔑 Keyword

自己の考えを表出  
自己を見つめる  
多面的・多角的に考える対話

〈研究主題〉

子どもたちに自他を認め合う心を育む研究

～道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れる工夫を通して～

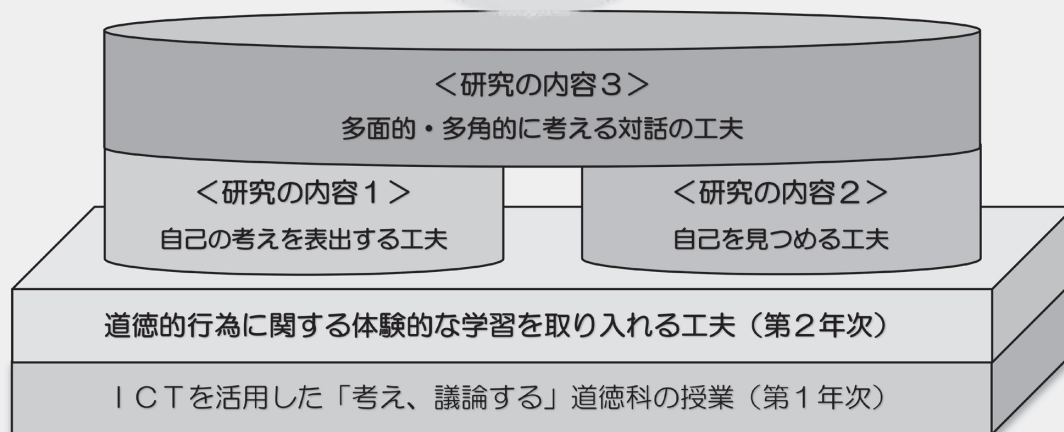
(2か年継続研究 2年次)

全国学力・学習状況調査の質問紙調査の結果を見ると、北海道の子どもたちは「自己肯定感や自尊感情」「他者の異なる意見を受容したり認めたりすること」「言葉で適切に表現すること」に課題があると考えられます。十勝の子どもたちにも同様の傾向が見られます。また、学習指導要領では道徳的行為に関する体験的な学習を適切に取り入れることも重要とされています。そこで、自己の考えを表出する工夫と自己を見つめる工夫、多面的・多角的に考える対話の工夫の研究を進めることで、自己を肯定的に受け入れ、他者の考えや立場を思いやり尊重できる「自他を認め合う心」を育む研究を進めます。

研究の仮説

道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れる工夫を通して、自他を認め合う心が育まれるだろう。

## 自他を認め合う心



管内の小・中学校各1校の協力を得て、協力員を委嘱し、授業実践を通じた研究を進めます。



一般財団法人 北海道公立学校教職員互助会 講演事業

令和5年度

# と か ち 教 育 講 演 会

講師 東京大学薬学部 教授  
い け が や ゆ う じ

## 池谷 裕二氏

### 「子どもを育てる脳科学」

日 時

11月9日(木)

15:00~16:45

(接続開始 14:45~)

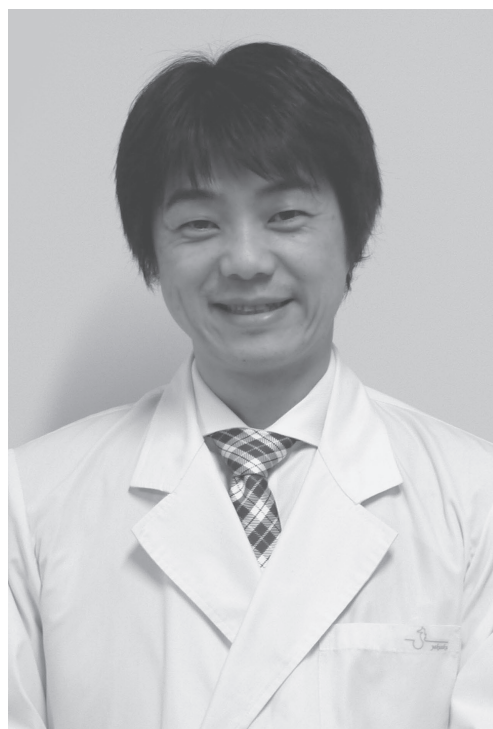
WEB

Zoomによる  
オンライン開催

お申込み

各機関で集約の上、十勝教育研究所HP  
申込みフォームよりお申し込みください。  
\*申込締切り 10/16(月)

**参加費無料**



#### お問合せ

十勝管内調査研究事業実行委員会

〒089-0531

幕別町札内暁町 290 番地の 2

(十勝教育研究所内)

TEL : 0155-56-2331

E-mail : staff@tokyoken.net

主催 一般財団法人北海道公立学校教職員互助会  
十勝管内調査研究事業実行委員会

共催 幕別町教育委員会

後援 十勝管内教育委員会連絡協議会

十勝小・中校長会 帯広市校長会

高等学校長協会十勝支部

特別支援学校長会十勝支部

北海道教職員組合十勝支部

高等学校教職員組合十勝支部

十勝教育研究所 帯広市教育研究所

7/24・7/31  
(月)・(月)

## 十勝教育研修センター 研修講座

新

会場：十勝教育研修センター

7/31(月) 講座番号43：十勝教育研究所と学ぶⅠ

7/24(月) 講座番号44：十勝教育研究所と学ぶⅡ

講座Ⅰでは各教科を対象とした「共同研究」、講座Ⅱでは特別の教科  
道徳を対象とした「協力員研究」それぞれの研究内容を通して、授業づ  
くりについて学ぶことができる講座です。どちらも、今年度から新設し  
た講座です。

たくさんの方々のご参加をお待ちしております。

## 道東地区教育研究所所員研修会

8/25  
(金)

会場：オホーツク・文化交流センター

8/31・9/1  
(木)・(金)

## 北海道教育研究所連盟研究発表大会(十勝大会) 兼 十勝管内教育研究所所員研修会

会場：十勝教育研修センター

## 十勝教育研究所研究発表大会

2/8  
(木)

会場：十勝教育研修センター

Web会議システムZoomによるオンライン開催予定

- 共同研究：自分の考えを表現し合い、学びを深める子どもを育む研究  
～考えを広げ深める対話の工夫と、学びを自覚する振り返りの充実を通して～
- 協力員研究：子どもたちに自他を認め合う心を育む研究  
～道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れる工夫を通して～



研修会・講習会の詳細につきましては、ホームページやFacebookなどでお知らせします。

担当のオススメ本



人付き合いに自信を付けたいなら、「気の合う友だちをつくる」力、「気の合わない相手ともうまく付き合う」力、「一人を楽しめる」力の3つの力を身に付けよう！齋藤孝先生が、新しい時代の友達関係を提唱しています。10代のうちに身に付けておきたい「本当の人付き合い」を伝授してくれる一冊です。

「友だちってなんだろう？」

著/齋藤 孝

出版社/誠文堂新光社

## 十勝教育研究

令和5年6月発行

発行所 十勝教育研究所

所長 山田 洋

〒089-0531

中川郡幕別町札内暁町290番地の2

TEL 0155-56-2331

FAX 0155-56-4260

Email staff@tokyoken.net

印刷所 北洋凸版印刷株式会社

# 編集 後記

## 担当から

学校現場における新型コロナウイルス感染症対策が見直され、新たな形を模索しながら、各学校や地域の特色を生かした教育活動を本格的に再開した学校も多いのではないのでしょうか。

さて、十勝教育研究所では、その年のテーマカラーを決め、様々な刊行物に使用しています。今年度は「壺堇色（つぼすみれいろ）」を採用しました。壺堇とは、ツボスミレの花芯部のような渋く濃い紅紫色のことです。元は万葉時代の重ねの色目に由来した色で、春の野に咲くツボスミレの様子を表した配色です。ツボスミレの筋の濃さには個体差があり、一輪一輪の個性が表れます。十勝教育研究所では、この壺堇色のように十勝の特性を生かした教育を大切に、調査・研究や教育情報の発信等を通して、管内の教育の充実と発展に尽力してまいります。

ご多用中にもかかわらず、原稿を執筆していただきました先生方や関係者の皆様に感謝いたします。

## 次号予告

### 特集

## 「不登校にどう向き合うか」

2022年10月に文部科学省公表の調査結果によると、小・中学校における不登校児童生徒数は過去最高の増加率となりました。広報誌345号では、不登校の子どもたちや保護者への支援や相談の在り方について、各学校での対応例や事例紹介を中心に特集します。

◇巻頭言 ◇教育現場への期待

◇わたしの授業実践 ◇わたしの学級経営 ◇共に学び共に育つ

◇健やかな心と体 ◇研究所めぐり ◇教育情報 ◇日々徒然

◇数字で見る十勝の教育 ◇学校めぐり

# 日々徒然

何気ない出来事に心を寄せて

## 「一握り」からの景色

新得町立新得中学校

教諭 柴山 貴大



中学校や高校時代、私の周りの大人たちは「音楽で食べていけるのは一握りだから」と、私の進路に反対した。

専門は管楽器だが、受験のためにピアノや声楽、音楽理論を専門の先生からも学んだ。芸術大学に合格し、卒業する頃には楽器メーカーからの支援を受け、プロ奏者として活動し、コンクールでは日本代表として国際大会にも出場した。国際コンクールとなると、伴奏ピアニストを自国から連れていく方も多いが、私のように初めて会う外国の伴奏ピアニストと30分程度の申告せですぐ本番を迎える者もいる。そこでは高い緊張感の下、音楽を互いの音で確認することで、非常に濃密な時間を過ごすことになり、それまでの学びや努力が繋がった至福の時だった。今思えば、私はいろいろな場所で様々な背景をもつ人物として活躍することができた。「一握り」とは、その存在に気付くと、案外誰でも何かしらの「一握り」なのだ。

教師となった今は、子どもが納得のいく進路選択と一緒に考える。軽々しく応援の言葉は使わないが、少なくとも「一握り」は、夢を諦めさせるための言葉としてではなく、自信や感謝の気持ちをもたせる言葉として使うようになった。私が関わることでできる「一握り」の子どもたちは、それぞれが「一握り」の存在として夢をつかんでいくに違いない。卒業して時がたったら、そこから見える景色を、私のところへ来て話してくれたらうれしい。

## 理想へ少しでも近づけるように

本別町立本別中学校

教諭 池田 匠



12年前の春、私は北関東の大学を卒業して、故郷である北海道での教員生活を始めようとしていた。当時は東日本大震災が発生した直後であり、遠く離れた北海道へ赴任することですら一苦労だった。そのような中で期限付採用教諭として始まった教員生活。職場には恵まれたが、採用試験に合格することはできず、出口の見えない苦難が何年か続いた。「自分は教員に向いていないのか？教員として子どもたちの前に立つ資格はないのか？」と自問自答する日々が続いた。それでも教員になる夢を諦めることができなかつたのは、当時お世話になった部活動のコーチの夢を代わりになんかえらためだ。その夢とは「北海道の片田舎から、本気で全国大会出場を目指す！」こと。私は部活動指導が教員の本務ではないことを承知しつつ、教員の立場で指導に携わり、同じ夢を追いたいと強く願った。

コーチから受け継いだ信条は2つ。「子どもたちの可能性を少しでも引き出して伸ばす」「自身で納得のいく結果を得るまで、何事も粘り強く取り組む」だ。この教えと姿勢が常に胸にあったからこそ、これまでの様々な苦難を乗り越えられたと感じている。その後、採用教員となって10年以上がたち、今再び自問している。授業や学級指導、そして部活動指導を通して、あのときの教えを伝えられているだろうか？子どもたちが自覚していないよさを認めて、寄り添って支えることができるだろうか？

かなえない夢もまだ夢のまままだ。今は亡きコーチへ堂々と誇れるように、今後も子どもたちと真摯に正面から向き合える教員でありたい。



### 【リンゴ収穫体験】

毎年、地域の方のご厚意で全校児童が体験しています。この積み重ねが、ふるさとへの愛着を培うものになっています。

# 学校めぐり



清水町立御影小学校

■児童数 95名(9学級) ■教職員数19名

御影小学校は学校運営協議会が設置される以前から、地域から多くのご支援やご協力をいただき、子どもたちは温かく見守られてきました。現在、これらを礎として令和3年に御影小中一貫教育推進委員会を立ち上げ、地域の教育を生かした「御影ならではの教育」を進めています。その1つに「十勝清水学」があります。これは、地域に関わる教育内容を教科の枠を越えて系統化した一覧です。子どもたちが「北海道・十勝清水」を学ぶ活動を通して、「ふるさと清水」への愛着をもち、社会に貢献する人の育成を目指しています。



### 【防災教室】

避難所で使う段ボールベッドの組立てにチャレンジしました。この経験が地域の支え合いにつながることを期待しています。



### 【スノーフェスティバル】

自然との関わりの中で異学年が様々な活動に取り組み、達成感を味わいました。雪まみれになりながら大満足でした。



### 【焼き芋体験】

収穫したサツマイモを自分たちでおこした火で焼いて食べる最高の時間でした。低学年とともに行う異学年交流です。



HP QRコード



十勝教育研究所